

幻想的なキャンドルの灯りで記念撮影

12月24日の夕暮れ、利用者様にクリスマスの雰囲気を楽しんでもらいたいとキャンドルサービスを行いました。フロアを消灯しテーブルに置かれたキャンドルに、サンタとトナカイに扮した職員がひとつひとつ灯を点していきます。これから何が起こるのか不安げな利用者様、事前に知らされていてワクワクしている利用者様、キャンドルに灯が点ると、皆さん暗闇に浮かぶ幻想的なキャンドルの明かりに「わ～、キレイ」と思わず言葉をもらし、拍手をしていました。利用者様ひとりひとりと記念撮影をし、次のフロアへ移動しようとする別れを惜しんでサンタたちを追いかけてくる利用者様までいました。また来年、変わらずお元気でお会いしましょう。



ハンドベルの音を響かせて

去る12月21日、平成の森・川島病院においてクリスマス会が行われました。



職員が着ぐるみやサンタクロスに扮してプレゼントを配り、看護副部長の指揮のもと、謎の4人組が、牧師？衣装で和音を奏でるハンドベルの響きが各病棟で順番に演奏されました。曲目は「アメージンググレイス」「きよしこの夜」「ジングルベル」の3曲。自宅に帰られる方が多い回復期病棟の患者様は、一緒になってジングルベルを歌ってくださり、ハンドベルも歌のテンポに流され、追いついていくのに必死でした。

普段は変則勤務により、なかなか5人が集まって練習する時間がとれませんでした。練習よりもミスが少なく、あっという間に各階の演奏が終了しました。終わってみると『患者様が大きな声で歌っている表情』が浮かび、チームワークと達成感を逆に患者様から学ぶことができました。

今後も患者様の笑顔が見られるよう職員一同取り組んでまいりたいと思います。



新垣 隆

新年の集い、日本古謡の名曲を鑑賞



平成 29 年の幕開けを祝う「新年のつどい」が 1 月 4 日、各階を廻り行われました。^{りゅうてき} 竜笛や^{そう} ミ二箏で奏でる日本古謡の名曲、「越天楽」「黒田節」「桜」などを聴いて頂きました。また、つづみの合いの手に合わせ元気に黒田節を歌い、曲にまつわるクイズも楽しみました。静寂な空気の中に響き渡る和楽器の音色で、昔の懐かしい映像を思い浮かべて下さった事でしょう。

ご家族より「久し振りに日本のお正月気分を味わわせて頂きました」との感想を頂きました。337 拍子の手締めでは、今年一年の幸せを予想させるがごとく、会場には笑顔が溢れ、利用者一人一人の生きる力強さを感じとることが出来ました。

(介護老人保健施設 平成の森 吉川 和子)

川島町消防署員立会いのもと消防訓練を実施

病院や老人保健施設といった建物は消防法にて自衛消防訓練の実施が義務付けられており、当施設も老健合同の消防訓練を年 2 回毎年実施しています。昨年も 12 月 7 日に川島町消防署員の立会いのもと平成 28 年度第 2 回目の消防訓練を行いました。老人保健施設 平成の森 3 階倉庫を火元とした通報・初期消火・避難誘導・防火管理者への報告といった実際に昼間の時間帯に起きた火災を想定した内容で行いました。さらに今回は消防署員の方が各訓練の内容を厳密にチェックされるということで、いつも以上に緊張感のある消防訓練となりました。

訓練日の 15 時になると担当の職員は落ち着かない様子で、発報の報知器ベルを待ちます。防災監視盤の警報が鳴り、事務員が動作を始めます。老健 3F では「火事だ！火事だ！」の音が響き、館内放送が入り、各病棟・各フロアも避難が開始されます。避難訓練においては、看護師や介護士が本番さながらのように汗だくでストレッチャーや車椅子を使って避難を行い、実際に患者様や利用者様にもご協力頂き、屋外へ救出して各部署の責任者が本部に状況報告します。その後、消防署員の方々による講評が行われます。非常に厳しいお言葉も頂きましたが今回のような厳しいご指摘にこそ、大きな改善の機会が詰まっていると思います。消防訓練に携わる担当者として患者様・入居者様は当然のこと現場で働いている職員の安全を守るよう、今後の消防訓練にこの経験を生かすよう努めていきます。

また、講評後は病院正面玄関前にて水消火器を使用した消火器実技訓練を行い、消火器操作が初めての職員には実際に使用してもらい使用方法を習得してもらう良い機会となりました。さらに今回は川島町消防署より地震体験車「なます号」を手配していただき、東日本大震災と同じ震度 7 を職員に体験してもらいました。車内ではテーブルは固定されていますが大きく揺れ始めたらテーブルに掴まるのがやっとという状態。実際に起きたら、テーブルは大きく移動し上に載っているものは飛ぶであろうことが容易に想像できます。

近い将来に必ずやってくると言われている東南海トラフ地震は震度 6 以上の長周期の揺れが 10 分間以上続き、東日本大震災以上の壊滅的な被害と言われています。震度 7 の揺れを体験して、実際に地震が起こったらどんな風になってしまうのか想像しただけで、恐ろしくなります。今まで以上に防災意識を高め、しっかりと備えていかなければいけないと痛感いたしました。

(平成の森・川島病院 総務課 片倉 惇)

